

## わたしの好きなヒロイン

— 『Little Women』のジョー — 佐藤 晟雄

青学卒業後、暫くしてD.H.ロレンス関係の本、それに失われた世代の作家たちの本を残して全部整理したことがある。だが後年、これらの本の中から新たに買い戻した本が三冊ある。誰もが知っている『若草物語』とマーガレット・ミッチェルの『風と共に去りぬ』、そして仕事が忙しくなり試訳し始めて放り出したダフネ・デューモリア（『レベッカ』の著者）のサスペンス調の『ジャマイカイン』である。

買い戻した理由は、私がはじめて読んだ長編小説がこのルイザ・メイ・オールコットの『Little Women』（若草物語）であったこと、また『ジャマイカ亭』は書き散らしたまま本箱に押し込まれていた原稿用紙を見て我ながら情けなく、もう一度やり直そうと決めたから。『風と共に去りぬ』は、長ければいいというものでは当然ない

が、私が読んだ最長編小説ということで、記念に残しておきたかったのかも。

『若草物語』は、戦場に赴いた主のマーチの留守を、マーチ夫人とおっとりした長女メグ、元気で一家の中心となる男勝りの次女ジョー、心優しき三女ベス、一番下の元気で明るいエミイの四人姉妹の一家で守る姿を描いたもの。この中で私が惹かれるのは次女のジョーである。敗戦の翌年、私は水戸中学を受験した。「右ノ者本年度第一学年二合格セリ依ッテ左記心得ノ上出校スベシ」という召集令状のような合格通知書がきた。英語の「エ」の字も知らない私にアルファベットを教え、英語の手ほどきをしてくれたのは六つ違いの姉だった。徴用で体を壊し田舎に疎開した長兄、次兄は南方戦線にあり消息不

明。戦争末期と戦後のあの混乱期、まだ大人になりきれぬ私を励まし、父母を助け、ベスの優しさを兼ね備えたジョーの役割を果たしたのはこの姉である。私にとってジョーはこの姉との二重写しである。

もう一人、ジョーと併せて思い出すのが『風と共に去りぬ』のスカレット・オハラ。レット・バトラーとの激しい恋もさることながら、病弱のメラニーを助け戦火の中をタラヘタラへと馬車を走らす彼女の姿は映画の中でも圧巻である。そんな彼女を描く作品だが、最後の文章は、I'll think of it all tomorrow, at Tara. . . . . After all, tomorrow is another day. で終わる。それはともかく、私が二人に強く惹かれるのは、女性特有の芯の強さとそこに流れる優しさであろうか。なお、さらに別な角度で人間の持つ tenderness と kindness とは何か考えたければ、ロレンスの一連の作品を探っていくのも一興かもしれない。

(57年卒)

## Common room

## 会員だより

M. Y. さん (女性 横浜市 '69年卒)

佐野弘子会長の巻頭随想で「同窓会」を意味する英語の語源からの説明はとても興味深く、改めて会報にもきちんと目を通さないとと思いました。また「私の好きなヒロイン」の記事も、20年の海外駐在の時の断片と重ねて、様々に国・文化・人へと考えるきっかけになりました。

昔から好きだったテニスに加え、仕事を辞めてからはゴルフも熱心に行っています。友人たちとのおしゃべり付きの体力づくりです。また毎週の礼拝と聖書教室等、教会との結びつき、信仰が生活の基盤であることに感謝です。

M. F. さん (女性 杉並区 '73年卒)

金田由紀子氏の「わたしの好きなヒロイン」黄金のアデーレという映画を私も見ましたので、興味深く読みました。この名画がウィーンからニューヨークに移された事実の背後に、ヨーロッパの苦難の歴史があることが印象的に感じられました。

グループホームの母と自宅の姑と二人の母の介護の傍ら、歌舞伎からミュージカル、落語まで、演劇鑑賞を趣味としております。英文科同窓会の講演会も興味深く拝聴しました。

M. F. さん (女性 国分寺市 '67年卒)

第31回セミナー講師 Charles De Wolf 氏の内容がとても興味深かったです。日本人よりも日本語を深く愛し、書いていらっしやる点が率直で素晴らしいと思いました。残念ながら参加できなかったことが悔やまれます。

仕事は今はずしていません。コーラス(2つ)、リコーダー演奏(昨年7月より)、体操の他、オーケストラやコーラスのコンサートへ出かけるなど、音楽は特に好きで、多くの時間を費やしております。

M. T. さん (男性 秦野市 '76年卒)

Sherlock Holmes の英語を毎回楽しみにしています。拝読する度に学生時代に受けた秋元先生の講義が思い出されます。

退職後、家にいる時間が増えたので若い頃から興味があった料理に挑戦しています。

M. H. さん (女性 港区 '72年卒)

「わたしの好きなヒロインー黄金のアデーレ：名画の帰還ー」と、金田先生が調査された日系移民一世女性が書いた「戦中日記」との関連性が興味深かったです。

ゴルフ、体操で適度に体を動かし、ブリッジで頭を使い(英文科のセミナーも)、老化防止に励んでいます。

M. K. さん (女性 港区 '86年卒)

授業の多読活動で Graded Readers の Sherlock Holmes のシリーズは人気があり、私もよく利用していることから、「Sherlock Holmes の英語」を興味深く読ませていただいています。

この夏放送大学で教員免許更新講習を受講しました。テレビやインターネットで授業を受けるというのは初めての経験で、とても新鮮でした。

A. K. さん (女性 中野区 '72年卒)

「黄金のアデーレ」の絵を見たのは、30年前ウィーンのベルベデーレ宮殿でした。以来この絵はずっと宮殿にあるとばかり思っていました。去年この映画を見てアデーレの家族の辿った運命を初めて知り、また姪マリアが80歳を過ぎてから祖国相手に訴訟を起こし、今世紀90歳になって自身の亡命先アメリカに一族の宝である名画「黄金のアデーレ」を取り戻したことも知りました。今回の記事は30年前の家族旅行や映画の感動を再び思い出させてくれました。

日本語を教えて25年になります。様々な国の様々なバックグラウンドの学習者の方々から学ぶことばかりです。